

（仮称）蘇我火力発電所建設計画に係る環境影響評価方法書についての  
意見の概要と事業者見解（概要）

「（仮称）蘇我火力発電所建設計画に係る環境影響評価方法書についての意見の概要と事業者見解」（4月2日届出）の概要についてとりまとめたものです。

1. 構成

- (1) 1章「環境影響評価方法書の公告および縦覧について」
- (2) 2章「意見の概要と事業者の見解」

2. 概要説明

- (1) 1章 環境影響評価方法書の公告および縦覧について
  - a. 蘇我火力方法書の公告，縦覧の実施内容と結果【P1～P2】
  - b. 蘇我火力方法書住民説明会の開催と結果，意見書の提出状況【P3】  
意見数 195 通，411 件（住民説明会において提出された質問・意見を含む）
  - c. 日刊新聞紙に掲載した公告内容【P4】
  - d. 自治体広報誌（ちば市政だより，広報いちほら）への掲載内容【P5】
  - e. 自治体および事業者ホームページへの掲載内容【P6～P18】

(2) 2章 意見の概要と事業者の見解

一般からの意見（411 件）を項目ごとに分類し，意見を取りまとめた上で事業者見解を記載したものです。

（環境の保全の見地からの意見：403 件，環境の保全の見地以外からの意見：8 件）

本資料では，この中から項目ごとに類似の意見が多いものを中心にとりまとめました。

a. 環境全般 計 63 件【P21～P37】

主な意見の概要	事業者見解（概要）
<p>・現時点で予想できる環境への影響とそれに対する対策はどうか 【4 件，P22（No4）～（No7）】</p>	<p>・大気，水質，騒音，景観，廃棄物等についての対策を記載 大気：利用可能な最良のばい煙処理設備の設置し，可能な限り抑制する 水質：総合排水処理装置等で適切に処理 騒音：防音・振動対策を適切に施す 景観：条例等に基づき，色彩等は周辺環境との調和に配慮 廃棄物：有効利用に努め，困難なものは法令に基づき適切に処理</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・石炭灰の年間発生量および有効利用方法はどうか</li> <li>・セメント原材料以外の有効利用方法の検討はどうか</li> </ul> <p>【13件, P25 (No10) ~P27 (No21)】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国電力の実績に基づく発生見込量を記載</li> <li>・セメント原材料として有効利用する計画だが、それ以外の有効利用方法についても検討を進めていくことを記載</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉県では、かつて大気汚染による気管支喘息や肺気腫など多くの公害認定患者を発生させた。今回の計画により周辺住民に健康被害を100%もたらさないといえるか</li> </ul> <p>【8件, P27 (No23) ~ (No30)】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用可能な最良の環境対策設備を採用することで、環境負荷を可能な限り低減する計画であることを記載</li> </ul>

b. 事業計画 計138件【P38~P74】

意見の概要	事業者見解（概要）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・すでに電気は足りており、発電設備が需要を大きく上回る状況。石炭火力発電を建設するのは無駄ではないか</li> </ul> <p>【8件, P38 (No64) ~P39 (No71)】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関東地域は、今後も人口や産業の集中が進むことから、中長期的に電力需要は横ばいで推移するものと想定</li> <li>・全国的に高経年化した火力発電所も多く、燃料コスト増による電気料金の上昇、CO<sub>2</sub>排出量の増加の課題があること、これに対し、高効率な石炭火力を導入する本計画は国の方針に沿ったものであり、関東地域の高経年火力発電所の更新の一つとして中長期的な電力安定供給の一翼を担うとの考えであることを記載</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・石炭火力発電はCO<sub>2</sub>排出量が多い。なぜ今、石炭火力発電所なのか</li> </ul> <p>【15件, P45 (No91) ~P46 (No106)】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本のエネルギー事情を踏まえた上での石炭火力発電所の役割や必要性を説明、加えて本事業で石炭火力を選択した理由を記載</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外では急激に再エネ単価が下がっており、火力への依存度はますます下がっていくと考えられる。再生可能エネルギーに取り組むべきではないか</li> </ul> <p>【18件, P48 (No113) ~P57 (No130)】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本における再生可能エネルギーの課題等を記載するとともに、石炭火力は「エネルギー基本計画」において「安定供給性と経済性に優れた重要なベースロード電源」との位置づけであることを記載</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・パリ協定が締結されて以来、世界は脱石炭の大きな流れになっている</li> <li>・パリ協定をどう受け止めているか</li> <li>・CO<sub>2</sub>排出量削減の具体的な対策は</li> <li>・親会社のCO<sub>2</sub>排出量削減の取り組みは</li> </ul> <p>【9件, P58 (No142) ~P59 (No150)】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の電気事業におけるパリ協定の目標達成の考え方等を踏まえ、本計画が高経年火力発電所更新の一つとして、日本全体でのCO<sub>2</sub>排出量低減に寄与できるものと考えていることを記載</li> <li>・両親会社のCO<sub>2</sub>排出削減の取り組み内容を記載</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・建設予定地は千葉市の人口密集地であり、現在その地域で深刻な粉じんが悩んでいる住民が多くいることを知っているのか</li> <li>・これ以上の大気汚染は耐え難い</li> </ul> <p>【14件, P61 (No158) ~P64 (No171)】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発電所計画の策定にあたっては、建設予定地周辺の歴史的経緯や地域特性を踏まえ、環境保全に万全を期すことを第一に、利用可能な最良の環境対策設備の導入等により、可能な限り環境負荷の低減を図る計画とすることを記載</li> <li>・本計画のばい煙、粉じん対策およびJFEスチール株式会社の粉じん対策を記載</li> </ul>

c. 環境（大気質） 計109件【P75~P100】

意見の概要	事業者見解（概要）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の稼働に伴う大気への影響はどうか</li> <li>・NO<sub>x</sub>, SO<sub>x</sub>, SPM, PM2.5, 光化学オキシダントの対策は</li> <li>・重金属の予測・評価は行うのか</li> </ul> <p>【18件, P77 (No211) ~P80 (No228)】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用可能な最良のばい煙処理設備の導入により環境負荷を可能な限り低減し、大気質への影響を抑制することを記載</li> <li>・重金属については、利用可能な最良のばい煙処理設備の導入と適切な炭種選定により十分除去する計画であることなどを記載</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・石炭粉じんを環境影響評価項目から外した理由は</li> </ul> <p>【5件, P82 (No237) ~P82 (No241)】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新設する貯炭場、運炭コンベアは密閉構造とすることから、環境影響評価項目として選定しないことを記載</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・磯子火力と比べるとNO<sub>x</sub>, SO<sub>x</sub>排出量が多いのは</li> </ul> <p>【15件, P89 (No267) ~P91 (No276)】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一概に他社と比較できないが、100万kW級の石炭火力において信頼性のある利用可能な最良の環境対策設備を設置することで、環境負荷の低減を図る計画であることを記載</li> <li>・今後の詳細設計により、更なるばい煙の低減を図るよう検討を進めることを記載</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・JFEスチールによる石炭等原材料の野積みの結果、工場周辺で粉じん、ばいじんが発生している</li> </ul> <p>【15件, P95 (No291) ~P98 (No305)】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JFEスチール株式会社が実施している粉じん対策を記載するとともに、今後の設備対策についても記載</li> </ul>

d. 環境（騒音，振動，低周波音） 計4件【P101～P102】

意見の概要	事業者見解（概要）
<ul style="list-style-type: none"> <li>低周波音の予測，対策について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>低周波音の発生機器については，可能な限り発生機器毎に低周波音を設定し，予測・評価を行うことを記載</li> </ul>

e. 環境（水質） 計26件【P103～P109】

意見の概要	事業者見解（概要）
<ul style="list-style-type: none"> <li>水温 7℃上昇に抑えるとのことだがそれで生物への影響は問題ないのか 【4件，P103(No315)～P103(No318)】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>温排水については，環境アセスメントでの多数の実績において海生生物などへの影響が少ないことが確認されている値を採用していることを記載</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>他の工場との累積影響はどうするのか 【3件，P104(No321)～P104(No323)】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域概況および現地調査結果の中に，その影響が含まれていると考えていることを記載</li> <li>可能な限り公開情報の収集を行い，必要な情報がすべて収集できた際には，複合影響について予測・評価を行うとともに，環境保全措置を検討することを記載</li> </ul>

f. 環境（動物・植物）計12件【P110～P113】

意見の概要	事業者見解（概要）
<ul style="list-style-type: none"> <li>動植物調査をしない理由は。千葉市で保護対象としているコアジサシのいる地域，影響を配慮するべきではないか 【2件，P110(No341)～P110(No342)】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象事業実施区域は，工業用地として造成された埋立地で自然植生はみられず，至近の調査において重要な種の生息・生育は確認されていないこと，当該資料の調査時から土地利用状況はほとんど変化していないことから評価項目として選定していないことを記載</li> <li>対象事業実施区域はコアジサシの営巣する環境でないことを記載</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>温排水による水温上昇で海生生物や海苔養殖に悪影響があるのではないか 【8件，P110(No345)～P113(No352)】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>温排水については，環境アセスメントでの多数の実績において海生生物などへの影響が少ないことが確認されている値を採用しているが，今後，取放水設備の詳細検討を進め，周辺海域の詳細な水温・流況調査結果に基づき予測・評価を行い，準備書で示すことを記載</li> </ul>

g. 環境（温室効果ガス）計 29 件 【P114～P122】

意見の概要	事業者見解（概要）
<ul style="list-style-type: none"> <li>いくら効率を上げてても CO<sub>2</sub> は発生する。国の CO<sub>2</sub> 削減にどう適合しているのか</li> <li>CO<sub>2</sub> 増大により地球の生態系破壊が進む</li> </ul> <p>【9 件, P114(No353)～(No361)】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用可能な最良の技術として位置づけられている超々臨界圧発電方式を採用し、発電電力量あたりの二酸化炭素排出量を抑えた高効率な石炭火力発電所とする計画であり、高経年化した火力発電所の代替電源の一つとして、日本全体での CO<sub>2</sub> 排出量低減に寄与できるものと考えていることを記載</li> <li>電気事業低炭素社会協議会に参加する事業者への電力供給を考えることで、二酸化炭素排出の低減に努めていく考えであることを記載</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>設備の利用率はいくらか、その場合の年間 CO<sub>2</sub> 排出量はどのくらいになるのか</li> </ul> <p>【9 件, P117(No364)～P118(No372)】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub> の排出量など温室効果ガス等については、環境影響評価の項目として選定し、排出量および排出原単位などを算出し、評価を行い準備書で示すことを記載</li> </ul>

h. その他 計 22 件 【P123～P129】

意見の概要	事業者見解（概要）
<ul style="list-style-type: none"> <li>住民説明会での質疑について、なぜ挙手方式ではないのか</li> <li>質疑での回答が一方的すぎる、回答に不満がある場合は再質問させてもらえないか</li> </ul> <p>【6 件 P124(No388)～P126(No393)】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出来るだけ多くの質問に答えることを第一に考え、書面による質問受付としたことを記載</li> <li>書面でいただくことで、幅広い質問に対し、適切に回答ができたと考えていることを記載</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>準備書は縦覧期間が終了しても閲覧できるようにすべき。またコピーや印刷を可能にするなど利便性を高めるよう求める</li> </ul> <p>【P127 (No396)】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネット上に公表される情報は、複製や加工が容易であること、また環境影響評価図書は当社が著作権を有するとともに、当社以外の作成物や当社の技術ノウハウが含まれていることから、インターネットへ公表に当たり、ファイルの編集、ダウンロード、印刷等ができないよう措置していることを記載</li> </ul>

以 上